

ギックリスマス

教授 高槻成紀

12月22日にぎっくり腰に襲われた。横になったが、体を起こすのはもとより、右にも左にも動かさない。無理に動かせば「悪魔の痛み」と呼ばれる激痛がある。あきらめてじっとがまんするしかない。このところずっと無理をしてきたのと、餅つきでふだん使わない筋肉を無理に使ったせいだと思う。私より年配のおじさんがたくさんついておられたので、少しでもお手伝いしたいと思ってつかせてもらったのだが、そのおじさんはなかなかきびしい人で、あれこれ注文をつけられ、私も緊張してちょっと無理をしてしまった。

さいわい翌日は祭日だったのでゆっくり休養できた。我が家に娘と孫が集まりクリスマス会をした。孫たちの声と廊下を歩くパタパタという刻みの速い足音に、恐る恐る体を動かして起きようとすると、きのうよりは痛みが少し緩んでいた。なんとか起きて、にぎやかな恒例のプレゼント交換に加わる。今年は長女の3人の孫に加えて、次女の2ヶ月の赤ん坊が「新人参加」し、うれしさも大きかった。

この日が金曜日で卒論原稿の提出日だったが、予定していた学生からほとんど来ない。少しだけ来た原稿を、体調が悪いわけではないので、ふとんの中で読み、腰に負担がかからない姿勢で返送する。

翌日の土曜日は24日でクリスマスイブ。目を覚ますと、腰の痛みはずっと弱くなり、起きるのもそれほど痛くなくなった。ポツポツと卒論原稿が来るが、少ない。だが、夕方になっていくつか届いてきた。

それらを添削し、夕食をすませて、しばらく休む。今夜は楽しみにしていた、小田和正の「クリスマスの約束」がある。それが始まるのが深夜で、それまで時間があったので待っていると、その間に次々と原稿が届き始めた。

ひとつひとつデータとともに眺めていると、感慨があった。これらはエッセーではない。この2年間に野外に出て、汗をかき、蚊にさされ、土に汚れながらとったデータを、何ヶ月もかかって読み取る努力をしてきたものだ。もっと言えば、多くの学生は1年生のときから交流してきた。「育てた」という感覚はないが、さまざまな活動を通じて成長してくれたのは確かだ。そういえば2年間の努力というより、4年間の歩みの結晶とってよいものだ。そう考えると、数字や文章の重さを感じた。

原稿を読んでいるうちに「約束」が始まった。いきなり「Tomorrow」の美しいハーモニーで扉を開いた。たぶん70年代のアメリカンポップスだと思う。何度か聞いたことがある。実にいい。

還暦を超してぎっくり腰になり、「約束」を聞きながら卒論を読んでいる。なんだか自分の大学人としての「らしさ」がつまっているような気がした。私は大学の先生になっても歌をうたっている人でありたいと思っていた。時代が違えば「不謹慎」といわれるかもしれないが、研究室にギターをおいている。そのことも私らしいと思うが、学生の指導もそう。同じ大学のほかの学生にくらべれば、はるかに高い基準を求めてきびしく卒論執筆を要求した。周囲がどうあろうと、それが学生の成長につながり、大学に入学したことの意味を結実させることにな

ると信じたからで、妥協を許さなかった。本人の勝手な思い込みに違いないが、私の中ではその頑固さは小田の歌作りに通じるものを感じている。そういう思いが交錯した。

卒論原稿を読みながら歌をきいていると、12時をだいぶ回ってしまった。初めから気になっていたが、キロロの玉置千春の顔がみえる。「『未来へ』を歌うのかな？」と期待したものの、さすがに今夜は自重しておこうと思い、床につく。

翌朝、録画をみるとやはり「未来へ」を歌っていた。玉置千春がしゃべるのを初めて聞いた。沖縄のなまりがあって好感がもてた。別の歌手のバックで歌うときも実にうれしそうな表情だったが、彼女の話によると、一時声がでなくなったりして、歌を聴けなくなった時期があったという。それを乗り越えて「約束」に参加できたことを心から喜んでいるようだった。そして「未来へ」はすばらしいできだった。声がすばらしい。そして小田のアレンジでハーモニーとしてもすばらしいものになっていた。

同じ歌でも「作品」としての歌はそのとき、そのときで違うのだと思う。このときの「未来へ」は格別のものではなかったか。それは歌い終わったときの彼女の表情が物語っていた。着席した表情は充実感に満ちていた。カメラはとらえなかったが、その後のコーラスを歌うとき、泣いていたのではないかと思う。それほど感動的だった。

去年の「約束」は新聞広告もすごく、豪華な歌手をたくさん集めた「紅白」的なもので、感動はあったが、「これでもか」という感じで、第1回からみている者としては「ちょっと違う」という印象をもった。だが今年も10回記念であるにもかかわらず、あるいはだからこそか、横浜でこじんまりとしたものになっていた。そしてハーモニーを重んじて、本当に歌の好きな仲間の集まりという雰囲気があった。

というわけで今年は忘れがたいクリスマスになった。